

山形県の肥育牛農家と肝付町の絆の左馬

7月19日に町長室において山形県で肥育牛約500頭を飼養する鈴木喜美夫さんより肝付町へ将棋の左馬の置物の贈呈がありました。鈴木さんと肝付町のご縁は10年前にさかのぼります。論地振興会の宮園節夫さんが山形県を訪問した際に鈴木さんに出会われ、お互い牛を飼っているというご縁で意気投合し、「是非、肝付町の牛も買ってください。」という宮園さんの言葉と東北地域では元々肝属郡の民有種雄牛が多く使われていたことから、肝属中央家畜市場へ購買に来られることになったそうです。鈴木さんにお伺いすると「肝付町には10年間大変お世話になりました。私が購買にきた10年前は子牛も私からすれば安く、こんな値段で買っていいのかなと思っていましたが、現在高値で推移し、一定の応援は出来たかなと思います。肝付町は高齢者の堆肥回収事業等もあり、高齢者でも元気で牛が飼えることは良いことで、肝付町の牛農家は県内で一番幸せだと思います。これからも良い牛づくりを頑張ってください。」とのことでした。



写真右より宮園節夫さんと鈴木喜美夫さん

鈴木さんの送られた将棋の駒は山形県の特産品であり、左馬とは通常の桂馬とは異なり、うまを左から読むと「まう」となり、おめでたい席の舞を思い起こさせることから福を招く縁起の良いものとされています。また、左馬の下の部分が財布の巾着に似ており、巾着は口が閉まってお金が逃げていかないことから、古来より富のシンボルでもあるそうです。また、普通の馬は人がひきますが、その馬が逆になっていることから普通とは逆に馬が人をひいてくる(=招き入れる)ということから商売繁盛という意味合いもあるそうです。

鈴木さん10年間ご購入ありがとうございました。今後とも末永いお付き合いをよろしくお願いいたします。

自分たちの牛で肝付町を盛り上げよう！ 第80回肝属肉牛品評会

7月12日に肝属中央家畜市場において第80回肝属肉牛品評会が開催されました。肉牛は、枝肉で評価されることが多いですが、これは牛が活着している状態で評価する品評会です。今回は郡内より11頭が出品され、その中で雌の1席に水窪振興会の内倉弘幸さんの「ゆきえ号」が輝きました。

この「ゆきえ」号は、肝付町内の精肉店である新村畜産の新村順一郎さんが落札されました。内倉さんにお伺いすると「今回も新村さんに購入していただきました。昔は自分の肥育した牛肉を町内で購入することは難しかったのですが、3年前より新村さんが頑張って購入してくださり、地元で自分の牛が買えるようになって大変ありがたいです。」とのことでした。

また、新村さんにお伺いすると「私は自分でも牛を飼っていますが、できるだけ地元の仲間の牛を取り扱えるように頑張っています。肝付町の美味しい牛肉を遠くの街からも人が肝付町へ食べたり、買いに来てくれるように、これからも牛で肝付町を盛り上げていきたいです。」とのことでした。

町民の皆さんも是非、肝付町の美味しい牛肉を周囲の方々といっぱい食べてみてください。



写真は中央の牛が1席に輝いた「ゆきえ」号
左から新村順一郎さん(岩崎振興会)・内倉悠作さん・内倉颯汰ちゃん・内倉弘幸さん(水窪振興会)